



開講式 講師の先生方

2019年4月、いよいよ平成から令和につながる記念すべき平成最後の月に、城山公民館成人学校開講式が行われました。

本年度は、28講座約450人の受講生を迎えての開講となりました。

以前、成人学校には三つの喜びがあると聞きしたことがあります。それは、学べる喜び、学べる時間のある喜び、多くの方と知り合える喜びの三つです。また、学ぶこと

より、自己表現が豊かになることも期待できるといわれています。

同好の仲間と心を通わせながら、生き生きとした日々を感じていただけたら素敵なおとすね。

城山公民館成人学校では、まだ、定員に余裕のある講座がありますので、ぜひ、一緒に学ぶ喜びを味わっていただけたらと思います。遠慮なく、お問い合わせやご見学を願います。



受講生の皆さん

# 城山公民館成人学校開講

## 令和に花開くあらたな学び



発行所 長野市立城山公民館  
 電話 232-3111  
 編集人 小池英樹  
 印刷所 富士印刷

管内の世帯数 (1・6・1)  
 第1地区…2,842  
 第2地区…5,403  
 合計…8,245世帯

### 「水彩画に 出会う」

志摩 晴樹

退職を機に、水彩画初級講座を受講しはじめてから早5年。お蔭様にて4年連続で皆勤賞を頂いておりますが、一向に上達する気配はありません。しかしながら、受講して

いて実に楽しい。おもしろい。小山先生、西山先生より懇切丁寧なご指導を頂き、気さくで明るいお仲間の皆さんと一緒していると、何だか気持ちが若返り、童心を取り戻したような気持ちになります。

一体、絵というものは、ま

ず気持ちを無心にさせてくれます。また、一回、一回に発

見があり、冒険もあり、自分を成長させてくれるようにも感じます。それが、老いて干からびた心の精神衛生にとっても良いように思えるのです。生活の幅をぐっと広くしてくれているように思えます。

残された寿命はそれほどあ

るわけではないとは思いますが、出来るだけ長く絵を楽しみたいと、下手ながら、今思っているところです。

お世話になっている城山公民館の皆様にも心より感謝申し上げます。

### 「四季を楽しむ盆栽 来たれ盆栽仲間」

齋藤 富美子

樹木に関心をもち、木のこともっとよく知りたいと思った時、城山公民館で、盆栽の講座があると知り、盆栽を一つも持たずに、いきなり飛び込みました。

始めた頃は、「盆栽って何?」

「どうして、あんな小さな鉢の中で、木が生きていられるの?」

と思っていたのですが、受講を続けていくうちに、独特の技法や奥の深さが、少しずつわかってきました。

一鉢ごとの木をじっくり見

る中で、季節ごとの緑の違いに気づいたり、一粒の種が、木になっていく姿を見るのは、とてもうれしいものです。増えた苗木を交換できるのも、仲間あつてのことです。

この楽しみを、もっと多くの

の人たちと共有できるように、受講生仲間が増えることを願っています。

## 令和元年度 城山公民館職員等

館長	小池 英樹
係長	岩田 要
職員	岡村 律子 市川 雅子 清水 祐希 小林 洋子
退職(館長)	黒井 昭
▽第一地区分館	北條 千秋
分館長	北條 千秋
分館主事	柄澤 申一
▽館報「城山」編集委員	北條 千秋 角田 紀久 山口 美緒
編集委員長	北條 千秋
編集委員	柄澤 申一
▽城山公民館 運営審議会委員	小池 公雄
第一地区住自協会長	小池 公雄
第一地区民生児童委員	岩倉 正江
第一地区横沢町公民館長	廣澤伊一郎
第二地区住自協会長	南波 克彦
第二地区青少年健全育成委員長	石坂 真一
第二地区教養文化部会員	北澤 仁己
子育てサークルリーダー	平塚真由美
柳町中学校長	西澤 道生
城山小学校長	清水 秀明

# 平成30年度 成人学校作品展

## ♪平成をしめくくる作品展♪



城山公民館成人学校の一年間の学習成果を発表する作品展（発表会）を2月に行いました。

一年間、熱心に取り組んで制作した作品、練習を重ねたステージ発表、お好み対局や心を込めたお点前などのおもてなし等、幅広い学びや活動の成果が発表されました。来館された皆様に大いにお楽しみいただいたその様子を紹介します。

令和2年の2月には、本年度の作品展（発表会）が予定されています。ご来館をお待ちしております。



『出会いに生かされて』

前館長 小林 洋子

城山公民館での三年間は、生涯に亘って多くの皆様が集う公民館を求め歩む日々でした。そんな中、何よりも皆様の笑顔が私の心の拠り所でした。城山公民館には、皆様の輝く笑顔が一番似合います。

笑顔は、新たな出会いを意味する出会いに導き、磁石のように多くの人々が引き寄せられていくやさしいエネルギーがあります。

歴史ある城山の地で時を刻ん

できた城山公民館だからこそ出会えた「出会い」、この一瞬の出会いがあったから学び得た「深い学び」、広い地球上で「城山公民館」という一点で出会えた全ての皆様に心より感謝申し上げます。そして、笑顔で応援しお支えいただきましたことに心より御礼申し上げます。

心をつなぐ友情人形ハンナさんと共に、これからも城山公民館から地域に笑顔の輪が広がります。心から願っております。



『学び、集い、結ぶ、地域のセンターに』

館長 小池 英樹

常に公民館のあるべき姿を大事にしつつも、時代の要請を受けて、新たな取り組みを積極的に推進してこられた小林前館長の業績を引き継ぎ、4月からお世話になっていきます。

これまで培われた城山公民館の伝統を大切にしつつ、今後の地域における社会教育の在り方を考えながら、多世代の交流や学びの地域センターとしての役割をさらに向上させてまいります。よろしくお申し込み申し上げます。

あちこち

スナップ



新諏訪北向き観音

# 足もとから知るわが町の成り立ち

連載① 箱清水式土器の発見・命名ものがたり

## 戸隠地質化石博物館

田辺 智隆

平和な江戸時代、人々の好奇心が大きく膨らみ、不思議なものを集め、考えるようになり、土の中から見つかる石器や土器、「矢の根石」と呼ばれた石鏃、古墳から見つかる勾玉や銅鏡などの考古遺物も収集された記録が残っています。

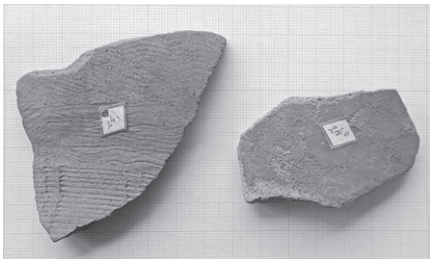
の土器で、縄文土器より新しい時代の遺物と考えられるようになり、明治30年(1897)、東京帝国大学人類学教室の蒔田鎗次郎が、この新しい土器を「弥生式土器」と呼ぶことを提案し、弥生時代の本格的な研究が始まったのです。

が研究されるようになります。大森貝塚は縄文時代後期から晩期の遺跡で貝殻にまじって土器等が発見されました。土器には縄目の文様がついており、後に「縄文土器」と呼ばれるようになります。明治17年(1884)、東京大学近くの本郷弥生町向ヶ岡貝塚から縄文土器とは違った土器が発見されます。薄手



長野高等女学校 造成工事風景

明治33年(1900)、箱清水の高台で長野高等女学校(現長野西高校)の建設工事が始まり、その現場から、ベンガラ(酸化した鉄)で赤く塗られた土器、櫛で描いた波型の文様のある土器が数百個、ほかにも炭化した米や麦などが発見されたのです。当時の校長渡辺敏は出土品を採集・保管し、東京帝大の坪井



長野県地学標本の中の土器片



箱清水遺跡で発見された土器・石器

正五郎博士に知らせました。この時代に稲作が始まったことに注目し、坪井は急ぎ長野を訪れ、現場やその土器を見て講演会を開きました。箱清水遺跡は全国的に知られるようになり、翌年には坪井の下で弥生時代の研究を進めていた蒔田、さらに玉置繁雄や鳥居龍三らが現地を調査しました。蒔田は「長野市に於ける弥生式土器の発見」として論文にまとめ、赤く塗られた土

器や櫛で描いた波型の紋を持つ土器の発見を学会に報告したのです。

しかし、この時発見された土器の多くは、昭和14年(1939)の女学校の火災で失われてしまいました。東京帝大で保管された資料や、明治37年(1904)保科五無齋が作成した「長野県地学標本」中の「長野高等女学校産の土器片」としてわずかに残されています。(続く)

## 立町公民館だより

### 公民館の現状と課題



立町独自の公民館活動としては、月二回の謡曲教室と月一回の資源回収を行っているのが現状です。その他には第一地区住民自治協議会主催の三世代ふれあいハイキングへの参加、ドッジボール・キックベースボール大会への混成チームでの参加、お誘いを頂く近隣公民館のイベント情報の提供に留まっております。

近年、様々な環境の変化により住民の減少そして、高齢化、それに伴う子どもの減少が立町の現状です。この環境の中、昨年度育成会長及び保護者の皆様のご尽力と区長・祭



立町公民館

典委員長を始めとする町内役員の皆様のご協力により、秋祭りに【子ども神輿】が約40年ぶりに復活いたしました。近隣から多くの子どもたちが集まり神輿を担ぎ、幼な子は神輿を囲むように付いて回る。保護者が見守る。それに伴う新たな出会い。久々に活気のある、そして元気を頂く時間でした。

この様子を観たとき、立町独自の公民館活動に固執することなく多くの人たちに参加して頂き、より多くの人たちに喜んで頂くことが大事なところかと思われました。子どもから子どもへ、子どもから保護者へ、保護者から保護者へ、保護者から子どもへ情報が伝わる。そして集い、学び、その場で出会うより多くの人たちと新たな情報で結ばれる。今、抱えている課題を受け止め尚且つ近隣の公民館との連携も視野に入れ焦らずに考えていきたいと思います。(立町公民館長 今井一幸)

### 城山の桜とお花見

その3

今年は、3月15日頃から城山公民館周辺に桜の花見小屋がで  
き始めました。今年の花見小屋がで  
に咲き誇りました。

今回は、昭和の時代に入っ  
てからの城山のお花見について  
『信濃毎日新聞』の記事で振り  
返ってみたいと思います。

#### ① 昭和初期のお花見

昭和4年4月16日付「北信の  
お花見は天長節のころ：休みが  
二日続いて勤め人は万々歳」と  
いう見出しで「長野の城山を初  
め大雲寺治田公園と北信地方  
の櫻はこの二十八、九（天長節）  
と休みの二日續く頃が真盛りだ  
らう」と天皇誕生日である天長  
節と連休になり、花見客でにぎ  
わうであろう様子が目に浮かび  
ます。また、「男女が代わる假  
装御法度 長野署の達し」と小  
見出しが付き「長野警察署では  
お花見の警戒としてまづ、一、  
男が女に、女が男になる假装は  
禁ず」とだけの御法度は出した  
が其他の假装なら許し出来るだ  
け、官服の警官なんかは花の下  
におくらず花見客の気分を害さ  
ない程度に、新町六人、大門六  
人の交番巡査を督励してスリヤ

泥棒を警戒し泥酔者や密會なん  
かを取締まる方針を立てた」と  
あり、男女以外の假装であれば  
許可とは、どの様な假装であつ  
たのか想像が広がります。警察  
署も花見客の気分を害さない配  
慮をする程、花見が市民にとつ  
ては大きな楽しみであった事が  
推察できます。

昭和10年4月24日付「無粋  
千萬なお布令 花見茶屋に『美  
人』はイカン 花の長野に意外  
な嵐」という見出しで、「(略)  
今迄花見茶屋への雇女使用を黙  
認して来た長野署が風紀上の見  
地からか突如今年は使用罷りな  
らぬと廿三日業者へ厳達した。

面食らつたのは掛茶屋連中では  
折角のお花見茶屋も氣の抜  
けたビール同處全く商売あがつ  
たりの状態なので協議の結果直  
ちに長野洋食組合長太田牧聲  
氏外代表者二名が長野署を訪問  
『東京など服装迄介してお花見  
景氣を添えてゐるのに掛茶屋の  
サービスマンがいけない』とチト  
無粋で御座らぬか』と言わぬば  
かりに陳情した 結局同署でも  
更に考慮の上何分の處置を講ず  
る事になるらしい』なんとも、  
風紀を重んじながらも市民の楽  
しみとの狭間で警察署が揺れて  
いたことが伺えます。また、昭  
和12年4月20日付では、縣商品  
陳列館でお花見の期間、奇術、

掛合漫才、流行歌のレコードコ  
ンサート等が行われていた記事  
がありました。

#### ② 戦後のお花見

昭和21年4月廿二日付「花よ  
り増産」の見出しで「国敗れ  
て山河あり」といふ詩の意味は  
とも角季節ともなれば新しい民  
主の国ニッポンにサクラの花は  
満開：(略)花より増産」と  
とへそのまま『花より増産』と  
食料難の世相を反映して、田畑  
に励む人の方が多し」と報じ、  
城山の桜の周りで田畑を耕し  
ている人々が写真に写っていま  
す。

昭和24年4月25日付「花に  
誘われ人の波」の見出しで「城  
山公園の人はザット七、八萬、  
(略)お客はいずれも近郷近在  
から集まつた子供連れ、サクラ  
をサカナに一升びんを列べ立て  
早くも花見とシヤれた組も一、  
三現れて、噴水のまわりや放送  
局や、懸社内の草地も折角の  
若草も見えず、人の頭で満杯  
となつた。おかげで平博(平和  
博覧会)も大にぎわい」と報じ  
ています。戦後4年、城山の桜  
は多くの人々を和ませたことで  
しよう。

折々日記 「老いを知る」 北條 千秋  
考えたくないのですが、次の冬  
には高齢者の仲間入りです。自分  
では変わらないつもりでも、どう  
しても納得せざるを得ない衰えは  
あります。  
そんな私が、昨年から縁をい  
ただき、医療と介護、高齢者を中  
心とした訪問診療などを行つてい  
る病院で人事や労務管理の仕事をして  
います。異業種からの転職な  
ので、病院特有の制度が分からな  
い、言葉も、そんな環境で一年  
ちよつと経ちました。異なる視点  
を持ち続けることも自分の価値な  
のでは、と居直りつつ。  
高齢化、少子化が進み、医療介  
護は、病院や施設から在宅で行う  
ものとシフトしつつあり、自らの  
健康維持に努めるとともに地域の  
助け合う仕組みも重要です。「自  
助・互助」ですが、その役割を一  
層高めようというのが「地域包括  
ケアシステム」の考え方です。  
自らの老いを感じたり、身内の  
介護が現実となつていく中で思う  
のは、諸々の制度を知り活用して、  
自らの行く先を、覚悟をもつて受  
け入れていくことが大切かと。現  
実に抗いながらも、地域の中で穏  
やかに過ごしたいですね。

編集後記 令和1号目の「館報城山」  
いかがだったでしょうか。  
昭和に生まれ、平成はギリ  
ギリ十代から四十代を過ごし  
たことになりませんが、振り返  
ると長かったような、あつと  
いう間だったような…。  
こういう時こそ何かにチャ  
レンジする好機かと思ひます。  
妻はこちらの公民館で「英  
会話」を習い始め、娘は高校  
で「弓道」をスタート。私も  
何かに取り組もうかと思案中  
です。まずは、今夏に向けて  
「筋トレ」でも…? (角田)

#### 城山公民館図書室 新刊図書のご案内

天下普請 雨上がり月霞む夜	稲葉 稔	そして旅にいる	加藤 千恵	残心	籾木 蓮
はつ恋 針と糸	西條 奈加 村山 由佳 小川 糸 夜汐 東山 彰良	殺人鬼がもう一人 怪物の木こり 昭和のお店屋さん	若竹 七海 倉井 昭介	昨日がなければ明日もない マーダーズ きょうも明日も炒めもの きじま りゅうた	宮部みゆき 京 長浦 沖方 丁 町屋 良平
みけねえちゃんに いうてみな 月	村上山いこ 辺見 庸	いちばんどおり テレビ探偵	藤川 智子 日隈みさき	麒麟児 1R1分34秒 あちらにいる鬼	荒野 井上 夢も見ずに眠った。 山 秋子
フランス座 芙蓉の干城	ビートたけし 松井今朝子	漂砂の塔 影ぞ恋しき	大沢 幸也 在昌 麟		